

令和 8 年度「助産師職能委員交流会」開催報告

2026 年 8 月 22 日（土）15：40～16：50

令和 8 年度助産師職能委員交流会（以下、交流会）は、『院内助産ことはじめ』の活用状況を共有しよう』をテーマに開催し、支部職能委員 9 名が参加しました。

『いわての未来をまもる 院内助産ことはじめ』（以下、『ことはじめ』）は、令和 4 年度に岩手県内の分娩取扱医療機関に勤務する助産師 320 名を対象に実施した「岩手県における母子のための地域包括ケアに関する実態調査」をもとに作成したものです。これまで、令和 6 年度は「ともに作ろう」、令和 7 年度は「ともにひろめよう」をテーマに、支部職能委員の皆さんと意見を交わしながら活動を進めてきました。

今年度はこれまでの活動を受けて、①活用状況、②活用に向けた課題と改善点、③今後の活用方法の 3 点について意見を交わしました。

完成した『ことはじめ』は、令和 7 年 9 月に県内各施設へ配布し、岩手県看護協会のホームページからもダウンロードできるようにしました。しかし、交流会では、「見たことがない」「病棟にあることは知っているが、活用していない」といった率直な意見が出され、配布や公開だけでは十分な周知につながっていない現状が明らかになりました。一方で、院内助産を開始する際のマニュアル作成や後輩指導に活用したという好事例も紹介されました。今後の周知・活用方法として、スタッフ間での回覧や院内研修への活用、妊婦にも伝わる内容や表現にすることなどが提案されました。

岩手県の周産期医療を取り巻く状況は厳しさを増しています。だからこそ、施設や地域を越えた助産師同士の連携が求められていると思います。交流会後のアンケートから「他施設の取り組みを知ることができてよかった」「自施設の取り組みを振り返るよいきっかけとなった」「助産師同士が交流できる場があるとよい」など、前向きな意見が寄せられました。

今後も支部職能委員の皆さんと協力し、各施設の実践や課題を共有しながら、助産師が専門性を発揮できる環境づくりにつなげていきたいと思っています。

（助産師職能委員 阿部 志保）

